



著者所属/論文（講演）タイトル/論文（講演）要旨/出版社（発刊社）/出版（発刊時期）



高岡義幸（広島経済大学経済学部教授）

米国経営の根底思想 —経済思想, 社会思想, 宗教思想—

はじめに 1.現代の経済体制の基盤形成 1.1 産業構造の発展・変革と企業 1.2 経済思想の発展・変革 1.3 経済学の発展・変革 1.4 経営学の誕生と発展 1.4.1 生産体制の科学化 1.4.2 マーケティングの誕生

2.経営環境要因としての保守とリベラル 2.1 共通要素としての「自由」 2.2 リベラル系思想とビジネス 2.3 新保守系思想の台頭とビジネス 2.3.1 新たな保守系思想の台頭 2.3.2 株式会社設計思想の大転換 2.3.3 新しいビジネスモデル

3.宗教の果たす役割 3.1 キリスト教国家としての米国 3.1.1 身近な事例に見る神 3.1.2 福音派の起源, 信仰, 価値観 3.1.3 聖書信仰によるアイデンティティの形成 3.1.4 福音派の分派 3.2 ビジネスへの福音派思想の影響 3.2.1 福音派の思想とその推移 3.2.2 ビジネスへの影響 おわりに

広島経済大学経済研究論集 2019年3月



齋藤一朗（小樽商科大学大学院商学研究科教授）

岐路に立つ金融機関のビジネスモデル —道内金融機関の財務構造から—

本日は、「岐路に立つ金融機関のビジネスモデル」という大仰なタイトルをつけさせていただきました。金融機関が今すぐどうこうなるというわけではありませんが、さすがにここに来て、預金、貸出を本業とする金融機関のビジネスモデルはかなり揺らぎを見せているのではないかと考えました。今日は、道内金融機関の財務構造を眺める中からどういうものが見えてくるのか、これから金融機関の経営を考える際にどこを切り口に考えたらいいかをご報告したいと思います。

北海道大学「地域経済経営ネットワーク研究センター年報」第8号 2019年3月



中嶋教夫&森屋 一訓（明星大学経営学特任教授）

環境ビジネスにおける戦略マネジメントシステムの提案 —株式会社環境管理センターの事例—

本稿は、中嶋ゼミナール3年生を主体として実施した産学連携活動の結果を踏まえたものである。中嶋ゼミナールでは、所属学生14名を3つのチーム（ビジネスモデル担当チーム、成長戦略担当チーム、M&A戦略チーム）に分けて担当領域を設定しており、その結果を産学連携活動として取りまとめている。産学連携活動の対象先である株式会社環境管理センター（以下、ENVIRONMENTAL CONTROL CENTER:ECC）は、東京都八王子市に本社を置く環境計量証明業を主たる業務とする企業である。ECCは平成27年6月期、28年6月期と売上と利益が伸び悩み、平成29年度6月期は増収増益となったものの、平成30年6月期は、減収減益かつ最終利益で赤字となってしまった。こうした状況を踏まえ、現在の企業状況を抜本的に見直し、かつ、新たな成長領域を模索するため、本稿における取り組みをテーマにすることに至ったものである。具体的には、①既存ビジネスモデルの見直し、②成長戦略の模索、③M&A戦略の検討、という3つの観点から企業経営を検討することとした。

明星大学経営学研究紀要 2019年3月15日



阿部智和（北海道大学大学院経済学研究院）
山口裕之（東洋大学経営学部）
大原亨（東洋大学経営学部）

セイコーマート：独自性の高いビジネスモデルの確立

セイコーマートは、2000年代前半に、事業の拠点としてきた北海道にターゲット市場を絞り、価値提案を当該市場に適したもの（プライベート・ブランドの展開、店内調理の導入など）へと変化させていく。さらに、この動きに併せて、取扱品目の生産・物流部門の内部化（垂直統合）を進めていく。本稿の目的は、この動向を追跡することにある。具体的には、当時の競争環境について概観したうえで、同社の物流活動、販売活動、生産・調達活動を記述する。最後にこれらの活動間のシナジー効果を示す。

北海道大学 Discussion Paper, Series B 2019年3月



國見真理子（田園調布学園大学准教授、シガン大学客員研究員）

新たなビジネスモデルとしてのシェアリングエコノミー： 今後の規制を視野に入れつつ

- 1 問題意識
- 2 シェアリングエコノミーの現状
- 3 シェアリングエコノミーの問題
- 4 考察

慶應法学 2019年2月



高木浩之（株式会社マネジメント総研）

P2M理論のFC経営への適用とビジネスモデルキャンパスの評価 ービジネスモデルキャンパスをP2MプロセスでFC経営に利用した際の評価ー

FC 経営 を定常業務活動と特命業務活動と捉え、経営戦略、事業戦略、プログラム創成、プログラム実行といった一連の流れの中で、現状からあるべき姿を描く際にビジネスモデルキャンパスの利用を試みる。ビジネスモデルキャンパスの 9 つの構成要素により、従来手法と比べ KPI などの抽出や P2M 理論のプログラム統合マネジメントでのミッションプロファイリングを行う際、FC 経営のモデル作成に有効であるか否かの評価を行う。本研究だけでは、P2M においてビジネスモデルが、有用であるとまではいえないが、FC 経営からスポーツ経営へ P2M 利用の展開やビジネスモデルキャンパスの利用の展開に繋げる一助としたい。

国際 P2M 学会誌 2019 年 13 巻 2 号

